書評 新刊紹介

淡水藻類入門
淡水藻類の形質・種類・観察と研究
山岸高旺　編著
内田老鶴圃刊
646頁，1999年6月刊
26,250円（税込）
藻類学会員特別頒価　22,500円（税，送料込，特価期限7月末，Fax. 03-3945-6782 にて，直接申し込みのこと）

山岸博士の永年の願望であったと思われる「淡水藻の研究」ガイド書が遂に完成した。氏がこの本の必要性を強く感じられたきっかけは，編者が淡水藻の研究に従事始めた初期に，入門指導書がないために自らが味わった永い，永い模索の時間があったこと，そしてそのときの経験を整理し，書として纏めることによって後継の人々に効果的に役立ててもらいたいとの気持ちによるものと考えられる。生きものを知らない生物学徒を育てる結果となっている現代の初等，中高の理科教育の現場で悩んでいる人々に，その解決の一歩を築く入り口を示すことにも役立つ本である。本書の一貫した哲学は，以下に引用させてもらう「はじめに」にある文章から知ることができる。

「藻類全般についての概説書は，今までに，.....数多く出版されている。しかし，それらの概説書がきわめて重要であることはいうまでもないが，実際には藻類の大要を会得してからでなくては難解なことが多い。.....すべては，まず，採集・観察して藻類の種類を知り，実態を知ることからはじまる。」。

本書は，I 淡水藻類の形質（56頁），II 淡水藻類の種類（266頁），III　淡水藻類の観察と研究（256頁），の3部から構成されており，最後に，索引として，1 術語小解・術語索引，学名総索引，2　属名・仮名読み・和名・対照索引，3　属名・仮名読み・和名索引，4 綱・目・科名索引（66頁），がある。

編者が述べているように，顕微鏡を通して微細な藻類の美しさに感動し，味わった人々が，さらに体系的に観察する，あるいは教材開発のために一歩進めた観察・研究を行うための手順を示し，それによってあるまとまった知識体系が芽生えたら，さらに進んだ研究の段階に進めるようにするための手引きをしたいとの意図が，本書に滲みでている。従って，先端的な現代の研究成果に目を眩ませられることなく，藻類研究の志をもつ人が，先ずもってどのように藻類を知り，観察し，そして発展させていくかを，採集用具から始まって，標本の保存法，プレパラートの作製法，スケッチその他の記録・整理の仕方までを，平易かつ丁寧にガイドすることを心がけている。

このことを端的に示しているのが，第3部の「淡水藻類の観察と研究」である。16人の著者が，それぞれの研究や観察記録の取り方を具体的に示している。この本の力点のおかれた部分であり，最重要部分であるので，以下にその全項目を挙げておく；1. 淡水藻類の採集と観察，2. 淡水藻類の観察と研究分野，3. ベントス性およびプランクトン性淡水藻類の観察と研究，4. 浮遊性藍藻類の観察と研究，5. カワモズク類の観察と研究，6. 日本産オオイシソウ科藻類の観察と研究，7. フシナシミドロ属の観察と研究，8. 珪藻類の観察と研究，9. コエラストルム属の観察と研究，10. サヤミドロ属の観察と研，　11.　アオミドロ属の観察と研究，12. 黄金藻類の観察と研究，13. 土壌藻類の観察と研究，14. 湖沼プランクトンの生態学的な観察と研究，15. 淡水藻類の変異性の観察と研究，16. ツヅミモ類の変異性の観察と研究，17. ツヅミモ類の培養と接合の観察と研究，18. 糸状藻類の細胞分裂と染色体の観察と研究，19. 顕微鏡写真の撮影方法，20. 学名と種の記載・同定，参考文献，である。

第2部「淡水藻類の種類」では，伝統的な分類体系の中の淡水藻だけを抽出して，日本では産しない淡水藻も含めて淡水藻分類の大要を理解することを意図して書かれている。そのため，この部分だけで日本に産する淡水藻なら全てもれなく分類同定が容易に行えるというものではないが，それには同じ著者と秋山博士共著の「淡水藻類写真集」（内田老鶴圃刊）を参照されるとよい。

第4部ともいうべき，「索引」には，藻類学分野で使われる学術用語（日本語）1000語余りとそれに対応する英語が示されている。主なものに簡潔な小解が付けられているのは，大変有効である。望むらくは，反対に英語用語から日本語が引ける索引が付いていたら，藻類の英語の文献を読む人に一段と有効になったのではないかと一寸惜しまれる。

堀　輝三（筑波大学生物科学系）